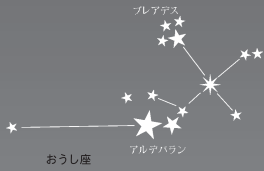


ポラリスを仰ぐ北の大地から



私もいままで こんなこと無かった！

宗谷医師会 会長 櫻井 晴邦

最近よく耳にする言葉、いままではこんなことは無かった。ここに住んで初めてだ。50年に1度の大雨など、毎回地方医療のことしか書いてなかったので、今回は私の身の回りについての報告である。

稚内も昔と比べ幾分か風が弱くなった気がする。冬も吹雪で雪が飛んで吹き溜まりができるよりも、東北と同じ様な感じで、深々と降り続くことが多くなってきた。朝目覚めるとビックリぼん雪かきはキツイ。

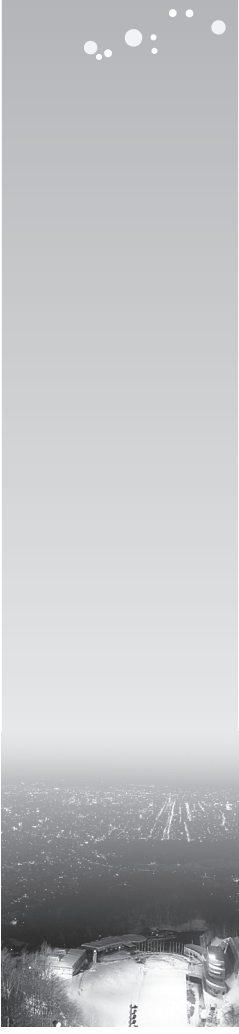
夏も温暖化の影響か、以前に比べ暑くなってきたのでそろそろクーラーでもと奮発。今年3台設置したがまだ出番がなく、7月でもまだ暖房だ。札幌は30度こちらは15度、早まったか。

去年の夏、稚内でも豪雨があり、一部の河川が氾濫し当院前の道路も水没。それに伴い裏山が崩れ、当院も避難勧告を受け、2日間休診、避難した。そういえば50年前の子どもの頃は裏山の一部ははげており、禿山と言っていた。最近は緑だったがまた禿げただけか、と思ったら。

そして今年になり問題発生。裏庭が1ヵ月前より石油臭く重油の匂いがする。最初は少量なので不法投棄かと思い放置していたが、ご近所さんも最近臭うのでなんとかしろと。2㎡位まで石油の染みが広がってきたので、業者にここ掘れワンワンとお願いした。古いタンク等も無く自然と湧いてきたらしい。土を入れ替えて様子を見るが、まだ染みってくるようだ。汚染された土の処理も廃棄物で大変、裏山の崩れで水の流れが変わったか。

いままでこんなこと無かったでしょう、だ。

このまま進行するとどうしようもない、引越しか？ はたまた廃院の可能性も？ いや石油王で左うちわ？ 乞うご期待。



紋別武徳殿のお話

紋別医師会 会長 小林 正司

紋別市には、オホーツク海を一望できる高台に、紋別武徳殿という名称の江戸時代の道場を彷彿とさせる武道場があり、少年少女を含めて、柔道、剣道、少林寺、弓道、居合道の愛好家が、連日、稽古に利用しています。

この建物は、鴻之舞鉾山が隆盛の頃の昭和15年に、従業員の心身の鍛錬のために建築されたものです。入母屋の厚い屋根を持ち、本州の茅葺屋根の木造和風建築にある柔らかさと、線の美しさがあります。

鴻之舞の衰退が明らかになった、昭和41年に、紋別武道館期成会が購入移築し、25km離れた現在地にその姿を残しております。

文化財的価値もあり、紋別、鴻之舞の歴史を知るうえでも大切に保存されるべき財産と考えております。

私と武徳殿の関係は、紋別で長年柔道協会の会長をしており、武徳殿を利用している5武道団体の指導者と、13人程で紋別武徳殿運営委員会を構成し、その委員長として毎年2回ほど会議を開いて、武徳殿の利用、保存、運営について話し合っています。続けて行われる懇親会では、酒を飲みながら、好き勝手に楽しく語り、各団体間の揉め事が全く無い状況で、地域の武道団体の親睦にも貢献しています。年寄りが多いので二次会はありません。

今年は、紋別武徳殿の移築50年ということで、秋には、記念武典を予定しており準備に入っております。

地域の人口減、少子化もあり、利用者は年間で、平成5年の31,279人から平成28年には7,225人と減少していますが、今後も、紋別市の全面的バックアップとわれわれ関係者、市民が協力しつつ、この格調高い紋別武徳殿を有効に使用し、現状を維持して後世に残していきたいと願っております。